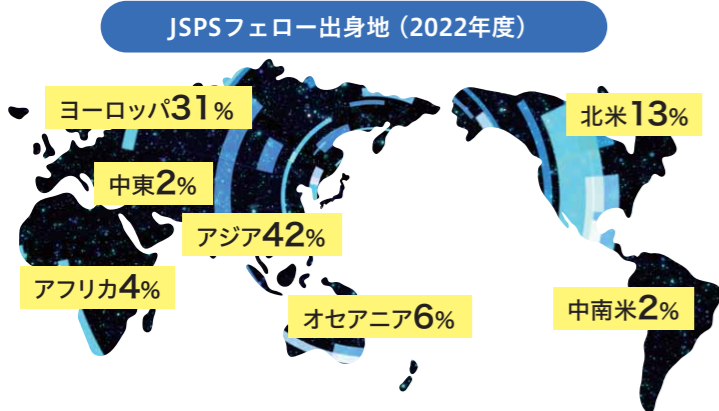


講師になるのはどんな人？

講師は、学振のフェローシップ制度によって、厳しい審査を経て世界各国から来日し、最先端の学術研究に携わっている優秀な研究者です。



サイエンス・ダイアログとは？

日本学術振興会学振のフェローシップ制度により来日し、各地の大学・研究機関で研究をしている外国人研究者（フェロー）有志を、近隣の高等学校等に講師として派遣し、自身の研究や出身国に関する講義を英語で行うことで、参加する生徒の研究への関心及び国際性への理解を深めることを目的とするプログラムです。

申込期間（締切厳守）

1学期開催分申込（2024年4月～8月）

2024
2/13 Tue 2/19 Mon 17時締切

2学期開催分申込（2024年9月～12月）

2024
5/13 Mon 5/17 Fri 17時締切

3学期開催分申込（2025年1月～3月）

2024
9/2 Mon 9/6 Fri 17時締切

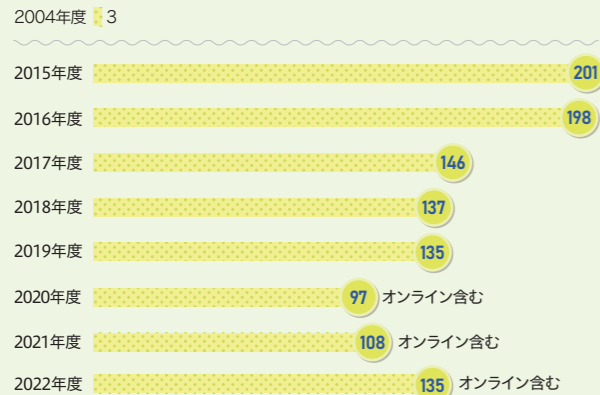
※提出専用Webページからお申込みください。詳細は、以下のWebサイトをご確認ください。

実績

全国で約220校の学校が参加しています。参加した生徒はのべ約65,000人になっています。授業後のアンケートで「再度講義を聴きたい」と回答した生徒は全体の約90%と高い満足度を誇ります。

実績件数の推移

※2017年度より1校につき年間3件までに制限



参加するには

お申し込みの際は、必ず以下のWebサイトに掲載の「実施要領」をご一読ください。

打ち合わせについて

学振から参加校の先生に、講師側の連絡先をお伝えします。参加校の先生から講師側に連絡を取り、両者にて講義内容や必要な機器などについて打ち合わせを行ってください。

交通費について

講義実施後に、学振から講師及び講義補助者に交通費を支給します。支給額は学振の規定に基づいて算出します。

WEBサイトのご案内

サイエンス・ダイアログWebサイト（日本語）
<https://www.jsps.go.jp/j-sdialogue/>



実施状況がご覧いただけるほか、必要な資料のダウンロードができます。申込書 / 報告書、アンケート様式 / サンプル英文（講師側との連絡用）



世界中の研究者と科学が紡ぐ、
講義と対話の舞台。

科学・文化の交流



2024年度

サイエンス・ダイアログ

独立行政法人 日本学術振興会 国際統括本部国際企画部人物交流課 〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1

お電話でのお問い合わせ ☎ 03-3263-1730 メールでのお問い合わせ ✉ sdialogue@jsps.go.jp



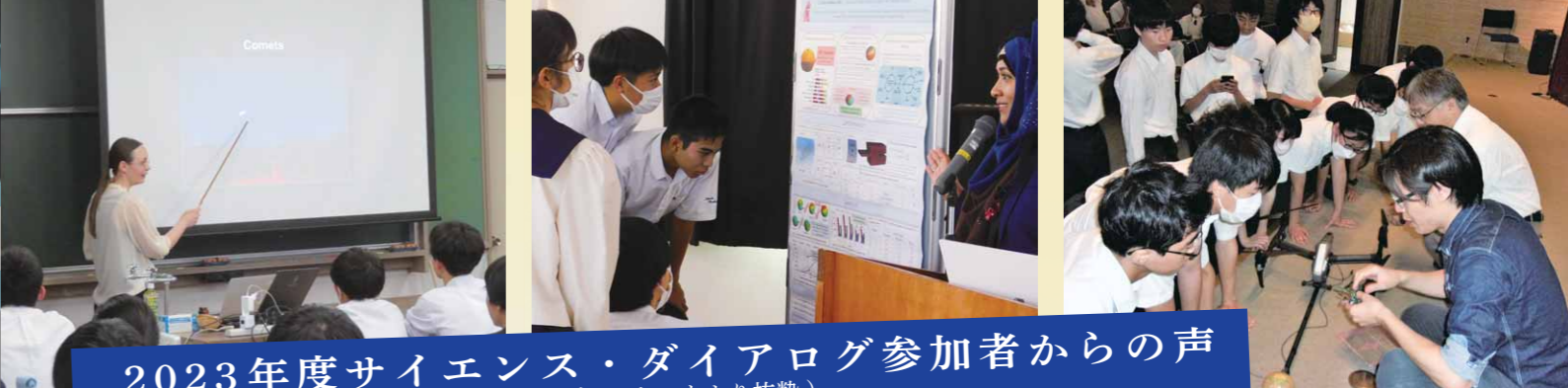
日本学術振興会（JSPS）とは？

文部科学省所管の独立行政法人で、日本の学術研究の振興を担う機関です。博士号取得前後の外国人研究者に対し、日本で研究を行うためのフェローシップを提供しています。

世界とつながる。英語でひろがる。

サイエンス・ダイアログで、

教室に未来がやってくる。



2023年度サイエンス・ダイアログ参加者からの声

(サイエンス・ダイアログ2023 報告書及びアンケートより抜粋)

FROM STUDENTS

生徒から

新しい価値観や考え方を知った
研究内容だけでなく、他国の方の考え方や価値観を知れたのがとても興味深かったです。

楽しく分かりやすく学べた
クイズなどを出してくれたり、具体例や例えをたくさん挙げてくださったのが理解の助けになりました。

英語での講義を聞く有意義な時間
ネイティブではないですが共通語として英語を話す人の講義を聞くことは、これからの社会で一般的になっていくと思うので非常に有意義でした。

イラストを交えた楽しい講義
スライドにイラストがたくさんあったので、英語が理解できなくても内容を想像し、聞き取れた単語と共に考えて理解に繋げることができました。

将来の選択肢の参考に
なぜ研究者の道に進んだのか、特に女性研究者として大変なことを詳しく知り、将来の進路を選択する際に参考にできると思いました。

研究者の視点とキャリアアドバイス
研究者の方の人生や、サイエンティストとしてのキャリア、そこからのアドバイスなども知ることができたのが良かったです。今後他の分野のお話も聞きたいです。

FROM TEACHERS

先生から

幅広い学びとキャリアのヒントが詰まった時間
講師の方が、非常に難解な分野を分かり易く解説してくださいました。途中、クイズやディスカッションなどがあり、インタラクティブだったのも良かったです。また、研究のことだけでなく、ご自分のキャリアパスについてもお話いただいたので、生徒はそちらの方は良く分かり、「英語がわかる」という自信にもつながったと思います。事前にスライドをお送りいただいていたので、そちらを配布することができたのも良かったと思います。

高いレベルの授業体験で実践的な研究への一歩を体感
理系生徒が中心であることを意識した講義をしてください、生徒が「高校物理の先」を意識できる講義でした。自分たちが現在学習している知識の確認クイズから本題に向けての流れを作って説明がされ、知識を実践的研究に利用することが、どのようなことであるかを感じられました。単語リストの事前配布により、おおまかな講義内容を予測することができ、英語を苦手とする生徒が多かったものの、およそ内容を聞き取ることができました。生徒自身の英語力の確認のためにも、よい経験になりました。参加者の中の1年生には、少し難しいと感じた生徒もいましたが、研究レベルの高さを知る、貴重な機会となりました。

講師から

voice-1
The program helps the students to understand what it is like to be a scientist, how scientific research works. I am sure these talks can have substantial effect on their career choice later in their lives.

voice-2
It is very good for the students to practice their English, and also get some international insight in science. Learning English is important for the future, and hopefully the students get encouraged doing so from this program. The program may also raise the students' curiosity in science.

FROM THE LECTURERS

講義例 1 2023年7月 福井県立高志高等学校

講師 金沢大学/イギリス Dr. Ruby MARSDEN

テーマ Dating volcanic eruptions

地学未履修でも分かりやすい英語の科学講義で、火山の面白さに触れるサイエンス部の生徒14名が参加しました。本校の教育課程では、地学は人文創造科の2年次以降に「地学基礎」が選択科目として設定されているだけで、今回参加した生徒は誰も履修していません。事前に講師の方にその旨お伝えしたところ、ご自身の研究をわかりやすく伝えるための準備をしてくださりました。中でも、炭酸水やチョコレート菓子を用いて、噴火の原理や火山岩の種類について説明していただいたのが生徒にとってはとても分かりやすく、印象に残ったようです。また、火山噴火周期予測の基本的な計算問題に実際に取り組みせてもらい、海外大学の研究ゼミのようなひとときを過ごすことができました。このように、英語で科学的な講義を受けることにより、生徒の知的好奇心が大いに刺激されています。

講義例 2 2023年7月 鳥取県立倉吉東高等学校

講師 国立研究開発法人理化学研究所/カナダ Dr. Michael COUNTRY

テーマ Mysteries of metabolism in the retina and in hibernation

国際バカロレアに興味津々！世界の科学と生命の不思議を学ぶ
7月7日に実施し、2年次から始まる国際バカロレア系に関心がある1年生の54名が参加しました。講義の前半では、ご出身のカナダのことや国内だけでなく世界で科学の研究をする重要性を具体的に学びました。後半は、研究内容である目や呼吸、冬眠の講義でした。英語での説明に慣れていないため難しく感じる部分がありましたが、スライドには写真やイラストが多く、丁寧な説明でしたので、生徒たちは興味深く聞きました。講義後には、「冬眠と睡眠の違いが分かった」、「大学で研究するというレベルが分かった」、「英語を勉強する目的やヒントを教えてもらえて、よかった」といった振り返りがあり、生徒の学びやキャリアにも関連の深い講義となりました。

その他こんな講義が行われています！

東京大学 × スウェーデン

Comets and what they can say about the formation of the Solar System

東京工業大学 × ニュージーランド

Learning to like science - from music to the science of sound

名古屋大学 × チェコ

Hulks and Deadpools of the Cytokinin Universe

九州大学 × バングラデシュ

Unlocking the potential of UV-C

参加校からのメッセージ

宮城県仙台第一高等学校 宮城県 能登 美樹子先生

本校では、今年度初めてサイエンス・ダイアログによる講義を実施し、希望者75名が参加しました。講師の先生は、自国の文化を紹介したり、研究内容を基本的なところから説明したり、生徒が理解しやすいよう工夫してくれました。生徒への問い掛けも多く、生徒達は様々な問題を考えながら、主体的に講義に参加できました。講義後の生徒からの質問にも丁寧に答えてくださり、生徒は講師の先生とのやり取りを楽しんでいた様子でした。サイエンス・ダイアログは生徒に科学の新たな分野の知識を与えてくれるだけでなく、異文化交流の側面もあり、また、英語学習の動機付けにもなっています。